

第 61 回日本救急医学会関東地方会幹事会

2011 年 2 月 5 日

幹事会議題

新幹事推薦(資料 1)

堀常任幹事長

報告事項

1. 庶務報告(資料 2) 矢口常任幹事
2. 2010 年度決算報告(資料 3-1、資料 3-2) 矢口常任幹事
3. 2011 年度予算報告(資料 4) 矢口常任幹事
4. 各常任幹事担当報告
 - ① 看護部会報告・JATEC™ 報告 山口常任幹事
 - ② 救急隊部会報告 横田常任幹事
 - ③ SOS-Kanto 報告(資料 5) 矢口常任幹事
 - ④ 編集委員会報告(資料 6-1、資料 6-2) 森村常任幹事
 - ⑤ ホームページ報告 猪口常任幹事
 - ⑥ 細則変更の報告(資料 7) 矢口常任幹事
5. 第 61 回日本救急医学会関東地方会報告
第 61 回日本救急医学会関東地方会相馬会長
6. 次期会長挨拶 第 62 回日本救急医学会関東地方会堀会長

審議事項

1. 名誉会員の推戴(資料 8) 堀常任幹事長
2. 会則の変更について(資料 9) 矢口常任幹事
3. 次々期会長について(資料 10) 堀常任幹事長

新幹事候補者リスト

	新幹事候補者名	所属
1	ツガキ エイジ 稲垣 栄次	日本医科大学多摩永山病院
	推薦者： 二宮 宣文 久野 将宗	日本医科大学多摩永山病院 日本医科大学多摩永山病院
2	キタハシ アキコ 北橋 章子	日本医科大学多摩永山病院
	推薦者： 二宮 宣文 久野 将宗	日本医科大学多摩永山病院 日本医科大学多摩永山病院
3	フルヤ リウスケ 古谷 良輔	国立病院機構 横浜医療センター
	推薦者： 岡田 保誠 森村 尚登	公立昭和病院 横浜市立大学医学部 救急医学
4	タカハラ シュウジ 高平 修二	埼玉医科大学国際医療センター
	推薦者： 佐藤 章 根本 学	埼玉医科大学国際医療センター 救命救急科 埼玉医科大学国際医療センター 救命救急科
5	ハヤシダ ケイ 林田 敬	慶應義塾大学病院
	推薦者： 佐々木 淳一 藤島 清太郎	慶應義塾大学医学部救急医学 慶應義塾大学医学部救急医学
6	イノウエ シゲアキ 井上 茂亮	東海大学医学部附属病院
	推薦者： 猪口 貞樹 中川 儀英	東海大学医学部救命救急医学 東海大学医学部救命救急医学
7	モロイ リュウイチ 諸井 隆一	東京女子医科大学病院
	推薦者： 武田 宗和 矢口 有乃	東京女子医科大学救急医学 東京女子医科大学救急医学

8	サノ テツ効 佐野 哲孝	東京臨海病院
	推薦者： 佐藤 秀貴 横田 裕行	東京臨海病院 救急科 日本医科大学付属病院 高度救命救急センター
9	ナカムラ シュンスケ 中村 俊介	昭和大学医学部
	推薦者： 有賀 徹 三宅 康史	昭和大学病院 救命救急センター 昭和大学病院 救命救急センター
10	ヒフミ トオル 一三三 亨	国立病院機構 災害医療センター
	推薦者： 小井土 雄一 井上 潤一	国立病院機構災害医療センター 国立病院機構災害医療センター
11	サクライ 効トシ 櫻井 貴敏	東邦大学医療センター大橋病院
	推薦者： 吉原 克則 本多 満	東邦大学医療センター大森病院 救命救急センター 東邦大学医療センター大森病院 救命救急センター
12	ヨコタ ユカ 横田 由佳	杏林大学医学部付属病院
	推薦者： 山口 芳裕 太田 祥一	杏林大学医学部救急医学 東京医科大学 救急医学
13	効ハシ コウヘイ 高橋 耕平	横浜市立市民病院
	推薦者： 森村 尚登 伊巻 尚平	横浜市立大学医学部 救急医学 横浜市立市民病院 救命救急センター

2010 年度 庶務報告

(2010 年 12 月 31 日現在)

総会員数 :	1006 名	(新会員 96 名)
幹事	306 名	(新幹事* ¹ 21 名)
名誉	20 名	
一般 (医師)	235 名	(新会員 46 名)
一般 (看護師)	155 名	(新会員 43 名)
一般 (救急救命士)	6 名	(新会員 0 名)
一般 (臨床検査技師)	1 名	(新会員 0 名)
一般 (その他)	1 名	(新会員 0 名)
一般 (不明)	282 名	(新会員 7 名)

*¹2010 年 2 月 6 日承認幹事

退会者 : 79 名 (うち 64 名は会費滞納による自然退会)

幹事	6 名
一般 (医)	4 名
一般 (看)	17 名
一般 (歯科医師)	1 名
一般 (不明)	51 名

会員のご逝去

5 名

高橋 勝三 先生

佐々 英達 先生

吉竹 毅 先生

吉水 信裕 先生

登内 真 先生

日本救急医学会関東地方会 2010年度決算報告書
(2010年1月1日～2010年12月31日)

【収入の部】

科目	予算	決算	予算比	備考
会費収入	6,000,000	5,563,000	-437,000	幹事会員年会費¥10,000 一般会員年会費¥5,000
当年度・過年度収入		5,473,000		
前受会費収入		55,000		
不明金(振込人氏名不詳)		35,000		
雑収入				
広告掲載料	500,000	150,000	-350,000	¥50,000×3社
銀行預金利息	2,000	793	-1,207	
その他(別刷代)	100,000	66,422	-33,578	
収入合計	6,602,000	5,780,215	-821,785	

【支出の部】

科目	予算	決算	予算比	備考
事業費				
刊行費(発送費を含む)	3,000,000	1,974,424	-1,025,576	刊行費¥1,716,392・発送費¥258,032
地方会補助費	1,500,000	1,300,000	-200,000	¥200,000円2011年に予備費より支払い
会議費	500,000	353,096	-146,904	
常任幹事会		268,664		
編集委員会		83,190		
会計監査		1,242		
交通費	200,000	319,480	119,480	
常任幹事会		60,000		
編集委員会		250,000		
事務局		1,480		
会計監査		8,000		
印刷費	100,000	27,300	-72,700	封筒作成の印刷代
ホームページ運営費	261,555	282,555	21,000	¥21,000×13ヵ月+ドメイン管理費¥9,555
事務費				
通信費	250,000	278,520	28,520	
業務委託費	672,000	672,000	0	
消耗品費	50,000	97,569	47,569	
租税公課	20,000	0	-20,000	
振込手数料	10,000	9,930	-70	
予備費	200,000	116,800	-83,200	PC代
支出合計	6,763,555	5,431,674	-1,331,881	
収支	-161,555	348,541		
前年度(2010年)繰越金	18,312,064	18,312,064		
次年度(2011年)繰越金	18,150,509	18,660,605		

銀行口座	¥2,825,697
郵便口座	¥15,808,410
手持ち金	¥39,098
小計	¥18,673,205
未払金	¥12,600
合計	¥18,660,605

監査報告書

日本救急医学会関東地方会の2010年度(2010年1月1日～2010年12月31日)における収支計算書、およびそれに付随する諸帳簿について必要な監査手続きを実施した結果、2010年度の経営状況を適正に表現しており、かつ会計手続きに不正のないことを認める。

以上

2011年 / 月 / 日

日本救急医学会関東地方会

監事 兼坂 茂 

監事 大橋 教良 

日本救急医学会関東地方会 2011年度予算(案)
(2011年1月1日～2012年12月31日)

【収入の部】

科目	2010年度予算	2011年度予算
会費収入	6,000,000	6,000,000
雑収入		
広告掲載料	500,000	250,000
銀行預金利息	2,000	2,000
その他	100,000	100,000
収入合計	6,602,000	6,352,000

【支出の部】

科目	2010年度予算	2011年予算
事業費		
刊行費(発送費を含む)	3,000,000	2,500,000
地方会補助費	1,500,000	2,000,000
会議費	500,000	500,000
交通費	200,000	200,000
印刷費	100,000	100,000
ホームページ運営費	261,555	261,555
事務費		
通信費	250,000	250,000
業務委託費	672,000	672,000
消耗品費	50,000	50,000
雑費	20,000	20,000
振込手数料	10,000	10,000
予備費	200,000	200,000
支出合計	6,763,555	6,763,555
収支	-161,555	-411,555
前年度繰越金	18,312,064	18,660,605
次年度繰越金	18,150,509	18,249,050

平成 23 年 2 月 5 日

日本救急医学会関東地方会
幹事 各位

日本救急医学会関東地方会 常任幹事 SOS-KANTO 担当

矢口 有乃

(東京女子医科大学 救命救急センター)

SOS-KANTO 委員長

田原 良雄

(横浜市立大学附属市民総合医療センター 高度救命救急センター)

新規 SOS-KANTO Study 会議開催のご案内

拝啓 向春の候、常々のご高配、厚く御礼申し上げます。

さて、SOS-KANTO の新規 Study としてニフェカラント vs. アミオダロンをスタートさせたいと考えております。

そこで下記会議を開催いたしますので、ご多忙中大変恐縮ではございますが、施設責任者もしくは代表者のご出席を賜りますよう、ご案内申し上げます。

敬具

記

1. 日 時： 平成 23 年 2 月 5 日 (土曜日) 14:10~16:10
2. 会 場： パシフィコ横浜 会議センター4階 418 [控室6]
3. 内 容： SOS-KANTO 新規 Study (ニフェカラント vs. アミオダロン)
について
 - ※ 収容時 VF/ 無脈性 VT 患者を対象とし、多施設前向き研究を行いたいと考えております。
 - ※ 概ね以前の SOS-KANTO Study と同様な手法で研究を行いたいと思います。

以上

2010 年『日本救急医学会関東地方会雑誌』第 31 巻 掲載報告

2011 年 2 月 5 日
編集委員長 森村 尚登

1) 投稿論文数

全投稿数：93 本（医師部会：73 本，看護部会：20 本）

	論文数	備考
2010 年学会全発表数	175 本 (医師部会：150 本，看護部会：25 本)	投稿率：52.5%
辞退・未着	83 本	
2010 年発表論文投稿数	92 本 (医師部会：72 本，看護部会：20 本)	
2009 年発表論文数	1 本（医師部会）	

2) 掲載論文数

	論文数
掲載論文数	91 本 (医師部会：70 本，看護部会：20 本，09 年：1 本)
再投稿依頼論文	2 本 (医師部会)

3) 広告数

3 社（広告依頼数 全 21 社）

4) 2010 年の編集スケジュール

- 6 月 18 日 第一回編集委員会。今年の方針を決定。
 7 月 各編集委員は投稿論文のチェックを行い，問題のある論文を抽出。
 8 月初 編集委員によって抽出された問題のある論文 54 本を著者に戻し，修正を依頼する。締切は 9 月 6 日とした。
 9 月 返送が遅れている論文について督促。
 9 月～10 月 著者による修正を編集委員がウェブ上で確認。
 10 月 22 日 第二回編集委員会。論文の修正点を確認。
 11 月 5 日 第三回編集委員会。論文の修正点を確認。
 11 月～12 月 編集委員会で出た疑問点を著者に確認。編集委員がウェブ上で確認した。同時に事務局は実務作業を進めた。
 12 月 7 日 責了
 12 月 22 日 完成，発送。

以上

日本救急医学会関東地方会雑誌 投稿規定

(平成 23 年 1 月改正)

I 原著論文・総説・症例報告（特別講演，シンポジウム，パネルディスカッションならびに一般演題の中で編集委員会が特に優秀として選考したものに限ります。）

1. 本誌は日本救急医学会関東地方会の機関誌であり，筆頭著者および共著者は関東地方会の会員であることを要します。
2. 原稿掲載の採否，掲載順序は編集委員会で決定します。
3. 本誌に掲載された著作物の著作権は，日本救急医学会関東地方会に帰属させていただきます。
4. 原則としてコンピューターを使用し，A4 の用紙に印刷した原稿を，必ずテキストファイルまたは Word ファイルと一緒に提出して下さい（メール添付でも受付可）。記録メディアは CD-R，USB メモリー，MO のいずれでも結構ですが原則として返却はいたしません。
5. 原稿は図，表，文献を含め，原稿用紙 25 枚（症例報告は 15 枚）以内とし，規定をこえた分は実費をいただきます。なお，図，表，写真各 1 枚は原稿用紙 1 枚として下さい。また，大きい図，表，写真の場合は原稿用紙 2 枚として下さい。図・表は必ず番号とタイトルが分かるようにして添付して下さい。写真は手札大にして別紙に添付するか，JPEG などの形式のファイルにし，なるべく高解像度で提出して下さい。
6. 原著論文の本文は，「はじめに（序文・緒言）」，「目的」，「方法」，「結果」，「考察」，「おわりに（結語）」の順に記述して下さい。また，症例報告については，「はじめに（序文・緒言）」，「症例」，「考察」，「おわりに（結語）」の順に記述して下さい。なお，「倫理的配慮」の項目を設ける場合には 1 項目として独立させて下さい。
7. 400 字以内の和文要旨と 100 語以内の英文要旨をつけて下さい。総説の場合，要旨をつける必要はありません。同時に英文で所属，著者名，題名も併記して下さい。
8. 文中の外国語は原則として小文字で書いて下さい。ただし，文頭および固有名詞は大文字で書いて下さい。
9. 数字はアラビア数字を用い，度量衡の単位は CGS 単位で kg，g，μg，cm，mm，ml などとして下さい。年月日などを記載する場合は個人情報保護に留意して下さい。必要に応じて編集委員会で修正を加えることがあります。略語は初めての時は略さず，（ ）内に以下某として下さい。
例：Injury Severity Score(以下 ISS)
10. 文献は主要文献のみとし，本文中に上肩付した引用番号順に配列して下さい。誌名の省略法は Index Medicus および医学中央雑誌に準じ，著者は 3 名までを記載し，4 名以降は他，et al として下さい。書籍において，編集責任者が 2 名以上の時は他編，eds として下さい。文献の記載方法については以下の形式を厳守して下さい。

1) 雑誌（和洋誌とも同じ）

著者名：題名．誌名 発行年；巻：頁（始—終）．

例：Davison R, Barresi V, Parker M et al : Intracardiac injections during cardiopulmonary resuscitation. A low risk procedure. JAMA 1980 ; 244 : 1110-1111.

Moss AJ, Davis HT, DeCamilla J et al : Ventricular ectopic beats and their relation to sudden

and nonsudden cardiac death after myocardial infarction. *Circulation* 1979 ; 60 : 998-1003
 吉井 宏, 山本修三, 茂木正寿 他 : Injury Severity Score とその有用性. *救急医* 1983 ; 7 :
 1087-1092.

2) 書籍 (和洋書とも同じ)

著者名 : 題名. 編集責任者, 書名. 発行地 : 発行所, 発行 ; 年 ; 頁 (始-終).

例 : Moore-Ede MC : Hypothermia a timing disorder of circadian thermoregulatory rhythms? In :
 Pozos RS eds, The nature and treatment of hypothermia. Minneapolis : University of Minnesota
 Press, 1983 ; 69-80.

入野忠芳, 渡辺 学 : 意識障害の判定と対策. 三井香児編, 脳神経疾患の救急初期治療. 東京 :
 南山堂, 1983 ; 62-74.

3) 電子媒体 (インターネット)

著者名 : 題名. ウェブアドレス, アクセス日, 年.

例 : Marion DW, Dommeier R, Dunham CN, et al: Practice management guidelines for identifying
 cervical spine injuries following trauma. Available online at: <http://www.east.org>. Accessed
 July1, 2000.

11. 別刷は 50 部まで無料贈呈しますが, それ以上は 50 部単位で実費を負担していただきます。

12. 原稿は郵送の場合, 必ず書留便で下記宛にお送り下さい。

<送り先>

〒164-0001 中野区中野 2-2-3

株式会社へるす出版事業部

日本救急医学会関東地方会事務局

Mail: qq_kanto@herusu-shuppan. co. jp

II 発表論文

日本救急医学会関東地方会の発表論文については上記に準じますが, 以下の点が異なります。

- 1) 地方会の発表内容を論文形式にまとめ, 学会当日に受付に提出して下さい。
- 2) 原稿は図・表・文献を含め原稿用紙 10 枚以内とし, 文献は 5 つ以内を厳守して下さい。規定枚数の超過は認められません。和文要旨と英文要旨の必要はありません。
- 3) 別刷は原則として作製しませんが, 御希望の方は原稿提出時に 50 部単位で申し出て下さい。実費を負担していただきます。

編集委員長

森村 尚登

編集委員

池田 弘人, 雅楽川 聡, 大高 祐一, 金井 尚之,

小井土雄一, 佐藤 陽二, 並木 淳, 萩原 章嘉,

原田 知幸, 弘重 壽一, 山崎 元靖

(看護部)

浅香えみ子, 佐藤 憲明, 木澤 晃代, 黒田 啓子

日本救急医学会関東地方会雑誌 投稿規定

(平成 22 年 1 月改正)

I 原著論文・総説・症例報告 (特別講演, シンポジウム, パネルディスカッションならびに一般演題の中で編集委員会が特に優秀として選考したものに限りませす。)

1. 本誌は日本救急医学会関東地方会の機関誌であり, 筆頭著者および共著者は関東地方会の会員であることを要します。
2. 原稿掲載の採否, 掲載順序は編集委員会で決定します。
3. 原則としてワードプロセッサを使用し, 20 字×20 行として A4 の用紙に印刷した原稿を, 必ずテキストファイルまたは Word ファイルと一緒に提出して下さい (メール添付でも受付可)。記録メディアはフロッピー, CD-R, MO のいずれでも結構ですが原則として返却はいたしません。やむを得ず手書きの場合の原稿は 400 字詰原稿用紙を用い, 口語体, 当用漢字, 新かなづかい, ひらがなまじり, 横書, 楷書として下さい。欧文は活字体で記入するかまたはタイプして下さい。
4. 原稿は図, 表, 文献を含め, 原稿用紙 25 枚 (症例報告は 15 枚) 以内とし, 規定をこえた分は実費をいただきます。なお, 図, 表, 写真各 1 枚は原稿用紙 1 枚として下さい。また, 大きい図, 表, 写真の場合は原稿用紙 2 枚として下さい。図・表は必ず番号が分かるようにして添付して下さい。写真は手札大にして別紙に添付するか, JPEG などの形式のファイルにし, なるべく高解像度で提出して下さい。
5. 文中の外国語は原則として小文字で書いて下さい。ただし, 文頭および固有名詞は大文字で書いて下さい。
6. 数字はアラビア数字を用い, 度量衡の単位は CGS 単位で kg, g, μ g, cm, mm, ml などとして下さい。年月日などを記載する場合は個人情報保護に留意して下さい。必要に応じて編集委員会で修正を加えることがあります。略語は初めての時は略さず, () 内に以下某として下さい。

例: Injury Severity Score(以下 ISS)

7. 文献は主要文献のみとし誌名の省略法は Index Medicus および医学中央雑誌に準じ, 著者は 3 名までを記載し, 4 名以降は他, et al として下さい。書籍において, 編集責任者が 2 名以上の時は他編, eds として下さい。

1) 雑誌 (和洋誌とも同じ)

著者名: 題名. 誌名 発行年; 巻: 頁 (始-終)

例: Davison R, Barresi V, Parker M et al: Intracardiac injections during cardiopulmonary resuscitation. A low risk procedure. JAMA 1980; 244: 1110-1111

Moss AJ, Davis HT, DeCamilla J et al: Ventricular ectopic beats and their relation to sudden and nonsudden cardiac death after myocardial infarction. Circulation 1979; 60: 998-1003

吉井 宏, 山本修三, 茂木正寿 他: Injury Severity Score とその有用性. 救急医 1983; 7: 1087-1092

2) 書籍 (和洋書とも同じ)

著者名: 題名. 編集責任者, 書名. 発行地: 発行所, 発行; 年; 頁 (始-終)

例 : Moore-Ede MC : Hypothermia a timing disorder of circadian thermoregulatory rhythms? In : Pozos RS eds, The nature and treatment of hypothermia. Minneapolis:University of Minnesota Press, 1983 ; 69-80

入野忠芳, 渡辺 学 : 意識障害の判定と対策. 三井香児編, 脳神経疾患の救急初期治療. 東京 : 南山堂, 1983 ; 62-74

8. 400 字以内の和文要旨と 100 語以内の英文要旨をつけて下さい。総説の場合、要旨をつける必要はありません。同時に英文で所属、著者名、題名も併記して下さい。
9. 別刷は 50 部まで無料贈呈しますが、それ以上は 50 部単位で実費を負担していただきます。
10. 原稿は必ず書留便で下記宛にお送り下さい。

<送り先>

〒164-0001 中野区中野 2-2-3

株式会社へるす出版事業部

日本救急医学会関東地方会事務局

Mail:qq_kanto@herusu-shuppan.co.jp

II 発表論文

日本救急医学会関東地方会の発表論文については上記に準じますが、以下の点が異なります。

- 1) 地方会の発表内容を論文形式にまとめ、学会当日に受付に提出して下さい。
- 2) 原稿は図・表・文献を含め原稿用紙 10 枚以内とし、文献は 5 つ以内を厳守して下さい。規定枚数の超過は認められません。和文要旨と英文要旨の必要はありません。
- 3) 別刷は原則として作製しませんが、御希望の方は原稿提出時に 50 部単位で申し出て下さい。実費を負担していただきます。

編集委員長

森村 尚登

編集委員

池田 弘人, 雅楽川 聡, 大高 祐一, 金井 尚之,

小井土雄一, 佐藤 陽二, 並木 淳, 萩原 章嘉,

原田 知幸, 弘重 壽一, 山崎 元靖

(看護部)

浅香えみ子, 佐藤 憲明, 木澤 晃代, 黒田 啓子

日本救急医学会関東地方会会則施行細則の変更について

【現 行】

1. 幹事について

[第 1 章 幹 事]

(資格) 第 1 条

1. 幹事は、次項に定める有資格者の中から選任される。
2. 幹事になるための審査を受けようとする者（幹事候補者と略記）は、次の条件をすべて具備していなければならない。
 - (1) 満 65 歳未満の正会員であること
 - (2) 申請時において引き続き 3 年以上の会員歴を有し、会費を完納していること。
ただし、日本救急医学会関東地方会以外の日本救急医学会各地方会での会員歴を加えれば継続した 3 年になる場合はこれを認める。（証明書添付）
 - (3) 国外留学等で会員歴に中断がある場合は、中断以前に「継続した 3 年間」の会員歴があれば認めること。
 - (4) 最近 5 年間に救急医学に関する十分な業績があること。
 - (5) 幹事 2 名以上の推薦を受けていること。

(審査の申請) 第 2 条

幹事候補者は、学術集会の 30 日前までに、別に定める様式の幹事候補者審査申請書を学会事務局に提出しなければならない。

(選任) 第 3 条

幹事の選任は、常任幹事会の議を経て行い、幹事会の承認を要する。

2. 名誉会員について

[第 5 章 名 誉 会 員]

第 21 条 名誉会員は、常任幹事が推薦し、幹事会の承認を要する。

【改正後】

(資格) 第 1 条

1. 幹事は、次項に定める有資格者の中から選任される。
2. 幹事になるための審査を受けようとする者（幹事候補者と略記）は、次の条件をすべて具備していなければならない。
 - (1) 満 65 歳未満の正会員であること
 - (2) 申請時において引き続き 3 年以上の会員歴を有し、会費を完納していること。
ただし、日本救急医学会関東地方会以外の日本救急医学会各地方会での会員歴を加えれば継続した 3 年になる場合はこれを認める。（証明書添付）
 - (3) 国外留学等で会員歴に中断がある場合には、中断以前に「継続した 3 年間」の会員歴があれば認めること。
 - (4) 最近 5 年間に救急医学に関する十分な業績があること。
 - (5) **名誉会員または幹事** 2 名以上の推薦を受けていること。

(審査の申請) 第 2 条

幹事候補者は、学術集会の 30 日前までに、別に定める様式の幹事候補者審査申請書**および業績**を学会事務局に提出しなければならない。

(選任) 第 3 条

幹事の選任は、常任幹事会の議を経て行い、幹事会の承認を要する。

第 21 条 名誉会員は、常任幹事が推薦し、幹事会の承認を要する。

第 22 条 名誉会員は、幹事会に出席し、意見を述べるができるが、議決に加わることはできない。

3. 常任幹事会について

[第 6 章 会議]

(常任幹事会)

第 16 条 常任幹事会は、常任幹事及び監事で構成する。

2 常任幹事長は、常任幹事会を招集し、議長の職務を行う。

3 常任幹事長は、常任幹事の 2 分の 1 以上または監事の請求があるときは、常任幹事会を招集しなければならない。

4 常任幹事会は、常任幹事現在数の 3 分の 2 以上の出席がなければ議事を開き、議決することができない。

5 常任幹事会における議事は、出席常任幹事の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

6 監事は、常任幹事会において意見を述べるができる。ただし、議決に加わることはできない。

2. 名誉会員の推戴要件は、以下の通りとする。

(1) 役員経験者であること

(2) 65 歳以上であること

(3) 本人に名誉会員となる意思があること

第 22 条 名誉会員は、幹事会に出席し、意見を述べるができるが、議決に加わることはできない。

第 16 条 常任幹事会は、常任幹事及び監事で構成する。

2 常任幹事長は、常任幹事会を招集し、議長の職務を行う。

3 常任幹事長は、常任幹事の 2 分の 1 以上または監事の請求があるときは、常任幹事会を招集しなければならない。

4 常任幹事会は、常任幹事現在数の 3 分の 2 以上の出席がなければ議事を開き、議決することができない。

5 常任幹事会における議事は、出席常任幹事の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

6 監事は、常任幹事会において意見を述べることができる。ただし、議決に加わることはできない。

7 通常常任幹事会は毎事業年度に 2 回（但し、4 か月を超える間隔で開催）、及び臨時常任幹事会は必要に応じて常任幹事長が招集する。

日本救急医学会関東地方会救急隊員学術研究会運営要綱の変更について

2. 会員

会員は、全国消防長会関東支部内の各消防本部に所属する救急隊員及び消防職員で、本研究会への参加者をもって構成する。

2. 会員

会員は、全国消防長会関東支部内の各消防本部に所属する救急隊員及び消防職員で、本研究会への参加者をもって構成する。

2 本研究会参加によって付与される会員資格は、その期限を学術研究会開催より一年間とする。

名誉会員候補者名簿

(敬称略 五十音順)

芦川 和高	第 25 回 (昭和 63 年) 会長
大和田 隆	第 11 回 (昭和 56 年) 会長
小池 荘介	第 35 回 (平成 5 年) 会長
西邑 信男	第 5 回 (昭和 53 年) 会長
野口 照義	第 12 回 (昭和 57 年) 会長
林 成之	第 48 回 (平成 12 年) 会長
辺見 弘	第 47 回 (平成 11 年) 会長
山中 郁男	第 46 回 (平成 10 年) 会長
山本 修三	第 30 回 (平成 3 年) 会長

名誉会員名簿

饗場 庄一	荒木 駿二	上田 守三	上松瀬 勝男
小林 國男	佐々木 仁也	島崎 修次	杉山 貢
鈴木 忠	高橋 愛樹	中江 純夫	中野 達也
平澤 博之	前川 和彦	松田 博青	茂木 正寿
矢崎 誠治	山本 保博	渡辺 晃	相川 直樹

日本救急医学会関東地方会会則 (抜粋)

第3章 会員

(構成)

第5条 本会は、次の会員によって構成する。

- (2) 名誉会員：本会の発展に特に功労のあった者で、別に定める細則により推薦され、承認された者

日本救急医学会関東地方会会則施行細則 (抜粋)

第5章 名誉会員

第21条 名誉会員は、常任幹事が推薦し、幹事会の承認を要する。

第22条 名誉会員は、幹事会に出席し、意見を述べることができるが、議決に加わることは出来ない。

日本救急医学会関東地方会会則の変更について

【現 行】

[第4章 役 員]

(役員) 第11条 本会には次の役員をおく

- (1) 常任幹事長 : 1名
- (2) 常任幹事 : 9名 (常任幹事長、会長及び次期会長を含む)
- (3) 監事 : 2名
- (4) 会長 : 1名
- (5) 次期会長 : 1名

【改 正 後】

(役員) 第11条 本会には次の役員をおく

- (1) 常任幹事長 : 1名
- (2) 常任幹事 : 8名 (常任幹事長、会長及び次期会長を含む)
- (3) 監事 : 2名
- (4) 会長 : 1名
- (5) 次期会長 : 1名

日本救急医学会関東地方会 歴代会長 一覧

	会期年月	会長	所属
第1回	S51(1976)年4月	織畑 秀夫	東京女子医科大学
第2回	S52(1977)年2月	大内 正夫	済生会神奈川県病院
第3回	S52(1977)年6月	飯島 登	聖マリアンナ医科大学
第4回	S53(1978)年2月	丹羽 直久	武蔵野赤十字病院
第5回	S53(1978)年6月	西邑 信男	日本医科大学
第6回	S54(1979)年2月	佐々木 仁也	都立墨東病院
第7回	S54(1979)年6月	亀谷 寿彦	東邦大学
第8回	S55(1980)年2月	若林 利重	東京警察病院
第9回	S55(1980)年6月	田中 隆	日本大学駿河台病院
第10回	S56(1981)年2月	泉 周雄	国立東京第二病院
第11回	S56(1981)年6月	大和田 隆	北里大学
第12回	S57(1982)年2月	野口 照義	千葉県救急医療センター
第13回	S57(1982)年6月	松田 博青	杏林大学
第14回	S58(1983)年2月	渡辺 晃	国立水戸病院
第15回	S58(1983)年6月	石田 清	埼玉医科大学
第16回	S59(1984)年2月	矢沢 知海	都立広尾病院
第17回	S59(1984)年6月	都築 正和	東京大学
第18回	S60(1985)年2月	大島 武雄	伊勢崎総合保健センター
第19回	S60(1985)年6月	大塚 敏文	日本医科大学
第20回	S61(1986)年2月	梅園 明	済生会宇都宮病院
第21回	S61(1986)年6月	小林 國男	帝京大学
第22回	S62(1987)年2月	高橋 勝三	武蔵野赤十字病院
第23回	S62(1987)年6月	八木 義弘	順天堂大学浦安病院
第24回	S63(1988)年2月	針谷 英世	大宮赤十字病院
第25回	S63(1988)年6月	芦川 和高	聖マリアンナ医科大学
第26回	H1(1989)年2月	中田 義隆	筑波メディカルセンター
第27回	H1(1989)年6月	三村 一夫	防衛医科大学校
第28回	H2(1990)年2月	荒木 駿二	公立昭和病院
第29回	H2(1990)年6月	上嶋 権兵衛	東邦大学
第30回	H3(1991)年2月	山本 修三	済生会神奈川県病院

第31回	H3(1991)年6月	平澤 博之	千葉大学
第32回	H4(1992)年2月	松村 正久	江東病院
第33回	H4(1992)年6月	高橋 愛樹	昭和大学藤が丘病院
第34回	H5(1993)年2月	島崎 修次	杏林大学
第35回	H5(1993)年6月	小池 荘介	東京医科大学
第36回	H6(1994)年2月	隣谷 義人	埼玉医科大学
第37回	H6(1994)年6月	上田 守三	東海大学
第38回	H7(1995)年2月	矢崎 誠治	日本大学駿河台病院
第39回	H7(1995)年7月	杉山 貢	横浜市立大学
第40回	H8(1996)年2月	鈴木 忠	東京女子医科大学
第41回	H8(1996)年6月	中村 紀夫	東京慈恵会医科大学柏病院
第42回	H9(1997)年2月	前川 和彦	東京大学
第43回	H9(1997)年6月	相川 直樹	慶應義塾大学
第44回	H10(1998)年2月	岡田 芳明	防衛医科大学校
第45回	H10(1998)年6月	相馬 哲夫	東京医科大学霞ヶ浦病院
第46回	H11(1999)年2月	山中 郁男	聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院
第47回	H11(1999)年6月	辺見 弘	国立病院機構東京災害医療センター
第48回	H12(2000)年2月	林 成之	日本大学
第49回	H12(2000)年6月	山本 保博	日本医科大学
第50回	H13(2001)年2月	市来 崙 潔	国立病院機構東京医療センター
第51回	H13(2001)年6月	饗場 庄一	前橋赤十字病院
第52回	H14(2002)年2月	黒川 顯	日本医科大学多摩永山病院
第53回	H15(2003)年2月	葛西 猛	亀田総合病院
第54回	H16(2004)年3月	有賀 徹	昭和大学
第55回	H17(2005)年2月	益子 邦洋	日本医科大学千葉北総病院
第56回	H18(2006)年2月	大橋 教良	筑波メディカルセンター
第57回	H19(2007)年2月	明石 勝也	聖マリアンナ医科大学
第58回	H20(2008)年2月	堤 晴彦	埼玉医科大学
第59回	H21(2009)年2月	行岡 哲夫	東京医科大学
第60回	H22(2010)年2月	長尾 建	駿河台日本大学
第61回	H23(2011)年2月	相馬 一玄	北里大学
第62回	H24(2012)年2月	堀 進悟	慶應義塾大学
第63回	H25(2013)年2月		